

植生と利用の変遷 (1930-1979)

1970 1973 1974 1976 1977 1978 1979

東お多福山南側のピーク(荒地山と思われる)から撮影された東お多福山草原の全体像。

尾根部のなだらかな場所では大人の胸高より高いスキの穂が見られる草原が広がっていた。

芦屋カンツリー倶楽部のDriving rangeから眺める東お多福山草原の様子。

子供の背丈よりも高い穂が高密度で見られる箇所がある一方、登山道周辺は膝丈よりも低い草原となっていた。

1980

前年の枯れた穂が残るスキの株。

草丈の低いスキの冬枯れ。

スキ草原の背後に港町、瀬戸内海を望む景色。

尾根部のなだらかな場所では、背丈の低いスキやネザサが優占していたが、東お多福山の麓側の登山道沿いでは3mを超える穂の立つスキ草原となっていたことが伺える。

1971年 山火事(100a)発生
東お多福山草原(芦屋市域)が国立公園特別保護地域に指定される

1972年 山火事(1500a)発生

1976年 山火事(800a)発生

1977年 山火事(700a)発生

1978年 神戸市域で再植林開始

1979年 芦屋市域で再植林開始

古い写真から明らかになる東お多福山草原のうつりかわり

東お多福山には戦後初期までは年1回の刈り取りにより維持されるスキ草原が広がっていましたが、1940年代以降は採草が途絶え遷移が進行、草原面積が大幅に縮小するとともにスキからネザサへ優占種が変化しました。その結果、近年では大半がネザサ草原となり、草原に特有の植物の多様性も失われつつあります。

このような東お多福山草原の近代から現代にかけてのうつりかわりを古写真から詳しく紐解いてみましょう。東お多福山草原の姿は大正時代以降の様々なハイキングガイドの写真から知る事ができます。また戦後は多くのハイカーが足を運んで草原の姿を納めてきました。私たちが慣れ親しんできた東お多福山のスキ草原には、現在厄介者とされているネザサもその一員としてみられ、背丈の高いスキの足下や、スキと同じ草丈で生育していたことが古写真から読み取れます。

また1930年から1990年代後半までの写真には草原内のほとんどでスキの穂が高い密度で広がる様子が写されています。特に神戸市域でスキ草原が維持されていたのは、1978年の植林の開始とともに草原の刈り取りが再開され、少なくとも1998年頃までは継続されていたためであったことが写真からわかります。一方、芦屋市域(特別保護区内)をみると、1984年の写真では草丈の高いスキが優占するも刈り取りの形跡はなく、1995年の写真ではネザサの優占度や草丈が高くスキがほとんど確認できません。このことから1980年代後半から1990年代前半の10年で急速にスキ草原が失われていったことがわかります。

人との関わりについては、家族や友人とのハイキングや幼稚園・子供会の遠足のほか、キャンプ、模型グライダーやパラグライダー、冬の積雪時にスキーなど様々なレジャーでも親しまれてきた様子がわかりました。これらは、草丈の低い草原として維持されていたから出来た使用方法です。

古写真から明らかになるかつての草原の姿を参考にしながら、東お多福山の環境や草原の生きものを未来に受け継ぎ、草原と人とのよりよい関わり方を模索していきたいものです。

行き方
阪神芦屋駅、JR芦屋駅、阪急芦屋川駅から阪急バス(80系統、または81系統)に乗り、東お多福山登山口バス停で降ります。登山道を45分歩けば、そこは六甲山地最大の草原がひろがる東お多福山山頂です!

著者：橋本佳延(兵庫県立人と自然の博物館)
発行：東お多福山草原保全・再生研究会
イラスト・印刷：株式会社光陽社
発行年月日：平成27年3月15日
改訂年月日：平成28年3月1日

この冊子内容は平成25年度科学研究費補助金若手研究B(課題番号:23701026)の研究結果の一部を使用しています。原稿作成には第5回阪急阪神未来のゆめ・まち基金助成金の一部を使用しました。

古写真から紐解く東お多福山草原の植生と利用の移り変わり

写真 芦屋市域の同一地点における30年間の植生の変化。1984年から20年の間にスキがネザサに置き変わり、更に10年で登山道の中央分離帯の落葉樹が樹高高く成長している様子がはっきりとわかります。

古写真から紐解く東お多福山草原の歴史

1930 1940 1950 1952 1957 1960 1965 1966 1969

1930-40年撮影。少女の背丈より少し高いネザサとスキが混生する植分が見られた。

山頂尾根付近では、30-50cmの草丈のスキが優占。

山頂からは六甲山山頂が見渡せた。

1930 1952 1960 1965 1966 1969

踏圧の多い広場、登山道脇はシバのように草丈が低いが、その辺縁部は50-100cmのスキが優占。

背丈の高いスキの下にネザサが優占する、スキ-ネザサ群落が一面に広がっていたとみられる。(神戸市域)

1940年 芦屋市域での採草の記録

1950年 山火事(49a)発生

1952年 ゴルフ場開発

1953年 山火事(20a)発生

1955年 山火事(20a)発生

1957年 山火事(70a)発生
東お多福山草原が国立公園特別地域に指定される

1961年 神戸市域で再植林開始

1962年 山火事(900a)発生

1964年 芦屋市域で再植林開始

1965年 山火事(200a)発生

1966年 山火事(200a)発生

1969年 山火事(480a)発生

古写真から紐解く 東お多福山草原の植生と利用の変遷 (1980-2014)

※この年表は平成25年度に実施した「古写真による東お多福山草原景観調査」によって収集された446点の写真から各年代を特徴づける写真を選定して構成しています。写真は36名の方よりご提供いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

歴史

歴史

出来事



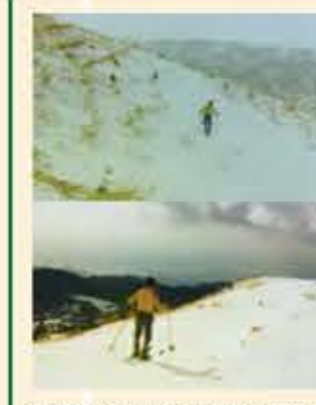
山頂より南斜面と北斜面をパノラマ撮影したものの。神戸市域では刈り取り管理が再開されたこともあり、春先はスキの立ち枯れもなく、草丈の低い草原となっていた。アカマツが低木林を形成しつつある。植栽由来かは不明。一部枯れも目立つ。(神戸市域) (環境省神戸自然保護官事務所提供)



黒く見えるのは山火事跡。刈り取りが継続されているので春は草丈の低い草原景観を呈している。モトクロスバイクが乗り入れている。(神戸市域)



秋は斜面をスキの穂が覆い尽くす景観となっていた。



冠雪した東お多福山草原でスキーを楽しむ人も。刈り取りが行われているため、雪面は平らになっている。



幼児の背丈より低い草丈のネザサ群落に、スキの穂が混在する草原が広がる。(神戸市域)



テント泊するハイカー



山頂北斜面では樹木の背が高くなりつつあるが、六甲山山頂まで見渡せる景観は維持されていた。



夏でも草丈の低いネザサの草原。背後にクリの低木。



冬季の刈り取りは継続されており、春は草丈の低い草原景観が広がっていた。(神戸市域)



神戸市域の平坦部ではスキの穂が一面広がっていた



A地点の変遷(スキほとんどなし)



スキの優占群落がまとまった面積で残っている。(神戸市域)



A地点の変遷(スキほとんどなし)



A地点の変遷(スキほとんどなし)



草原の中核部ではスキの優占群落がまばらになりつつある。(神戸市域)



スキの優占する植分がほとんどみられない。(神戸市域)



芦屋側の登山道はササに覆われ通行が困難になりつつある。



特別保護地区の登山道両脇の刈り取り管理を開始し、奥地方面の眺望が改善。

1980



山頂でもスキが繁茂。少年の背丈ほどに伸びた穂。



記念撮影の背景には等間隔に植えられた松が見える。草原刈り取りが行われた後の風景(左)自治会のハイキング。春には多くのハイカーが東お多福山を訪れていた。(右) (神戸市域)



春先は草丈が低く、駆け回れるような原っぱに。ラジコングライダーを飛ばす家族。(神戸市域)



雨が峠の周辺は低木林化が進み、草原景観が見えなくなりつつある。



秋の草原に訪れスキの穂を手にする子ども。刈り取ったスキの一部刈り倒されたままであったようである。(神戸市域)



春の写真にスキの大きな穂がみられ、刈り取り範囲が縮小した様子が窺えるが見られる。秋に広がるスキの穂の向こうには植栽されたヒノキの低木林が。(神戸市域)



春



秋



東お多福山南方のピーク(おそらく荒地山山頂付近)からみる草原の広がり。遠くからも草原があると視認できる広さが維持されていた。

1990



ササの草丈は低く維持されている。マウンテンバイクの乗り入れ。(神戸市域)



写真左側の落葉した夏緑樹の樹高は、以前よりも高くなっていることが伺える。山頂の様子。



A地点の変遷(スキほとんどなし)



神戸市域の南斜面も草原として維持されている。パラグライダーの練習。



スキの穂がたなびく、背丈ほどのスキ草原。(神戸市域)



南斜面も草丈が低い状態で維持されている(右)草原管理は継続されていたが、樹木の植樹・低木は刈り残していた模様(左) (神戸市域)

1991

1992

1995

1996

1997

1998

1999

2000

2001

2003

2004

2005

2008

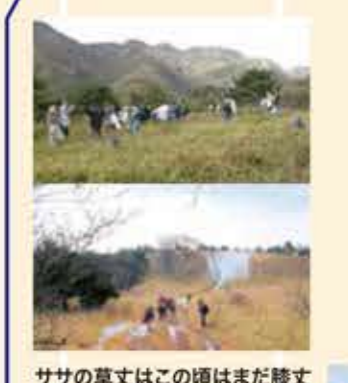
2014



スキの優占する植分が小さくなり、ネザサの優占する植分が大面積を占めるようになっている。(神戸市域)



山頂付近の植生の樹高が高くなり、眺望が阻害されつつある。



ササの草丈はこの頃はまだ膝丈程度であった。(神戸市域)



山頂付近で奥池まで見渡せる眺望点が存在していた。現在は植生の樹高が高くなり、奥池まで見渡せない。特別保護地区内はネザサが優占している。



管理面積を約8000㎡に拡大し草丈の低い草原の広がりを感じられるようになった。



山頂付近で奥池まで見渡せる眺望点が存在していた。現在は植生の樹高が高くなり、奥池まで見渡せない。特別保護地区内はネザサが優占している。

1980年
山火事(Ono Park)

1992年
六甲山頂の米軍通信基地が撤去される

1995年
生物多様性国家戦略が策定される
阪神・淡路大震災発生

2003年
東お多福山草原が兵庫県選定「ランドリフト」指定される
神戸市が「ランドリフト」指定される

2008年
特別保護地区の管理面積を約1000㎡に拡大する

2014年
特別保護地区の管理面積を約8000㎡に拡大する